



# 災害に 備えよう

● 彦田 貴弘

国労東日本本部 執行副委員長



皆さんは災害について日頃から意識することはありますか。

今年の9月1日は1923年(大正12年)11時58分に首都圏を震度7や6強に相当する(現在の表現値)に発生した関東大震災から100年の節目の年となりました。

発生時はお昼時であり、昼食の準備で多くの家庭で火が使用されていた事や、風が強く吹いており被害が拡大されたと学生時代に学んだ記憶があります。

地震大国といわれる日本ですが首都直下地震や南海トラフ地震など予想がされていますが過去の経験をいかし再び招かないための備えが課題とされています。

自宅や職場の最寄りの避難所やハザードマップを確認したことはありますか?非常参集訓練などで避難所の確認をされている方も多いと思います。

また、地震などが発生し自宅での避難や避難所にて必要なのは食料になります。自宅での避難では最低3日分は必要であるとされており。過去の震災を経験した際は電気・ガス・水道・携帯電話など、いつも生活をするうえで

あたりまえのライフラインや物流などの交通インフラなどが停止してしまう可能性もあります。

このようなお話をさせていただきましたが我が家がどうしているのか、このコラムを書いているなかで確認をしたところ、お恥ずかしい事ながら非常用持出袋に懐中電灯もありましたが、まさかの電池が用意されていないという事が判明しました。やはり定期的な点検が必要であると改めて実感しました。

最近では地震やゲリラ豪雨などがありヒヤリとする事がありますが、あらためて最寄りの避難所の確認や災害への備えについてご家族や職場で話し合うなど考えてみてはいかがでしょうか。

